

地方創生推進交付金対象事業に係る検証結果一覧

【3ヵ年度（平成29年度から平成31年度）】

（事業について）

事業名	各取組名	事業概要	事業費 （円）	交付金充当額 （円）
クルーズシティ木更津プロジェクト～東京湾の新たなクルーズ拠点を目指して～	木更津港を活用した大型外航クルーズ船誘致業務	木更津港木更津南部地区木更津ふ頭G・H岸壁における発着港としての受入可能性の検討や外航クルーズ船社への誘致活動、2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えたホテルシップ事業、フライ&クルーズの検討を行いました。	19,980,000	9,990,000
	クルーズ船航行安全対策検討業務	「航行安全検討委員会」を設置し、クルーズ船入港の前提となる運用基準等を示した航行安全対策を策定しました。（対象船舶14万GT級、16万GT級）	26,834,760	12,499,380
	木更津港内港周辺地区マスタープランに関するマーケティング調査等実施業務	内港マスタープランの対象地区を中心としたマーケティング調査を行い、本市の地域資源や経済状況等についての整理を実施しました。 また、本調査結果を用い、木更津内港周辺地区への進出可能性について、複数の民間事業者を対象にヒアリングを行いました。	15,000,000	7,500,000
計			61,814,760	29,989,380

（指標について）

指標	指標①	指標②	指標③
	観光入込客数	大型クルーズ船の寄港数	訪日クルーズ旅客による推計消費額
現状のKPI参考値 （事業開始前）	1,793万人	0隻	0千円
指標値【増加分】 （3ヵ年度分の合計）	212万人	14隻	2,224,000千円
・実績値（平成29年度） ・増加分（累計）	1,842万人 49万人	0隻 0隻	0千円 0千円
目標年月	平成32年3月	平成32年3月	平成32年3月
取り組みの評価	平成29年度実績値増加分の49万人については、クルーズ船の寄港によるものではなく、道の駅「木更津 うまぐたの里」の開業が要因になっているものと考えられます。 平成29年度の取り組みについては、誘致を目指している中国（上海）からの大型外航クルーズ船はショートクルーズが多く、関東に寄港するロングクルーズが作成されておらず、まだ木更津港には入港していないため、指標値への効果は出ていません。 しかしながら、大型外航クルーズ船運航会社訪問や木更津への招聘による誘致活動を行ったことにより、船社との関係構築を図るとともに、誘致実現に向けた取り組みを推進することができました。	平成29年度の取り組みについては、誘致を目指している中国（上海）からの大型外航クルーズ船はショートクルーズが多く、関東に寄港するロングクルーズが作成されておらず、まだ木更津港には入港していないため、指標値への効果は出ていません。 しかしながら、大型外航クルーズ船運航会社訪問や木更津への招聘による誘致活動を行ったことにより、船社との関係構築を図るとともに、誘致実現に向けた取り組みを推進することができました。	内港周辺地区の公園等に進出を希望するディベロッパーが3社、単独出店を希望する事業者が4社、核となる店舗次第で出店を検討する事業者が7社いることを把握することができました。
今後の方針	平成28年度からの誘致活動により、木更津港への大型外航クルーズ船寄港の実現可能性が高まってきているため、引き続きクルーズ船社を訪問しての誘致活動や招聘を継続して実施していきます。 また、クルーズ船寄港時に見込まれる訪日旅客による観光入込客数の増加を目指すため、市内各観光施設（MOP・イオンモール木更津・フルーツ狩り等）のPR活動を行っていきます。	平成28年度からの誘致活動により、木更津港への大型外航クルーズ船寄港の実現可能性が高まってきているため、引き続きクルーズ船社を訪問しての誘致活動や招聘を継続して実施していきます。 これらにより、クルーズ船の寄港を目指します。 また、クルーズ船寄港時にクルーズ旅客のお客様満足度向上のため、おもてなし組織作りの検討等の事業を行います。	内港周辺地区の海辺の公園等に、民間事業者の集客施設整備をすることで、訪日クルーズ旅客受入による消費が見込めるため、民間事業者の公募要項等を整備し、民間集客施設の誘致活動を継続して実施していきます。

地方創生推進交付金対象事業に係る検証結果一覧

【3ヵ年度（平成29年度から平成31年度）】

（事業について）

事業名	各取組名	事業概要	事業費 （円）	交付金充当額 （円）
「里海」×「里山」× 「街なか」資源の相互連携による地域 活性化プロジェクト	木更津版 DMO設立 支援業務	木更津版DMO設立支援業務の委託を行い、木更津を取り巻く現況を踏まえた地域資源の観光的価値に関する調査・分析や「木更津版DMO設立検討会議」の設置及びメンバーによる共創地域づくりのための合意形成を図りました。	9,979,200	4,989,600
	木更津版 DMO運営 業務	「木更津版DMO」となった（一社）木更津市観光協会に対して、マーケティング調査やその他運営にかかる費用に充てるための補助金を交付いたしました。	3,096,000	1,404,500
計			13,075,200	6,394,100

（指標について）

指標	指標①	指標②	指標③
	着地型観光商品の開発による旅行受入者数	大規模集客施設を除く年間観光入込客数	人口の社会増
現状のKPI参考値 （事業開始前）	0人	987,000人地点	732人
指標値【増加分】 （3ヵ年度分の合計）	1,250人	74,000人地点	289人
・実績値（平成29年度） ・増加分（累計）	0人 0人	1,929,818人地点 942,818人地点	657人 657人
目標年月	平成32年3月	平成32年3月	平成32年3月
取り組みの評価	平成29年度はDMO設立のための準備段階に徹し、事業を手がける専門人材の雇用を平成30年度からとしたため、平成29年度は着地型観光商品の開発を実施しませんでした。 DMO設立の準備として、関係者等へのヒアリング調査や各種マーケティング調査を行うとともに、観光地域づくりに係る合意形成を図るための検討会議を3回実施しました。 また、平成30年度以降DMOが担う地域マーケティング機能を円滑に開始するため、本市観光の現状や課題を抽出するために、三井アウトレットパーク木更津への来訪者を対象にした調査事業をDMO自身で行い、補助金を交付しました。	平成29年10月に開業した道の駅「木更津うまぐたの里」の入込客数1, 006, 000人が新規に含まれています。 沿岸部の来訪者を内陸部へ回遊させる目的は達成していますが、計測地点が増加し、KPI値へ及ぼす影響が想定以上であったため、目標値を改める必要があると考えられます。	地域内のDMO設立に向けた気運醸成を図ってきたところだが、専門人材雇用を平成30年度からとしたために、事業を実施していないため、検証する段階には至っていません。
今後の方針	継続的な観光マーケティング分析やモニターツアーを実施することにより、本市に対する観光需要や課題を抽出します。 その内容を踏まえ、域学連携によるオーガニックツーリズムを推進していく中で、体験コンテンツを提供する仕組みづくりを行い、来訪者・観光客との地域住民相互の目線に立った受入環境整備を行います。	マーケティング分析の動向を踏まえ、観光経営塾を定期的に開催し、観光マーケティング視点で地域資源の見直しや情報発信手法の磨き上げを行うとともに、沿岸部のみを目的として本市を訪れる来訪者を内陸部へ回遊させるためのコンテンツ作りに取り組みます。	オーガニックツーリズムを推進していく中で、木更津ならではの立地や風土、体験や地域住民との交流を取り入れた地域づくり型体験・観光・周遊コンテンツを造成します。 その中で、地域の優れた技と人が輝く場を提供し、木更津に住みたい、住み続けたいと思う意欲の醸成に繋がります。 また、東京湾アクアラインを利用した都会からのアクセス性を、観光商談会やイベント等で戦略的にPRしていきます。